



<N0194>

クスダマツメクサ (薬玉詰草)

花序（花の集まり）がくす玉のような形をしていることから名付けられた。直径が5mm程の鮮黄色の蝶形花冠（蝶のような形をした花＝マメ科植物の花）で花弁に縦すじのしわがある。河川敷や市街地の空き地にしばしばマット状に群生しているのを見かけるが、可愛い花がびっしり生えている姿は、散策時には多くの人の目にとまり、注目度は高い。

花期は6-8月。ヨーロッパ原産で、日本では1940年代に確認された帰化植物で、厚木市周辺には2000年ごろから広がった。

よく似た仲間にコメツブツメクサがあるがこちらは花序の花の数が少なく花冠は米粒のように小さいので区別できる。マメ科の1年草



<N0195>

オオバウマノスズクサ（大葉馬鈴草）

この花に出会うとびっくりする人がいる。なんでこんな形をしているのかと不思議がる人がいる。以前から探していたがやっと会えたと喜ぶ人がいる。身近に自生していながら花をつける株は少なく、観察会常連の参加者でも初対面の人がいて、花の前でひとしきり盛り上がることもある。

長い花柄の先につく花は筒状で途中が曲がっていて、吹奏楽で演奏されるサクソフォンの形に似ている。開いている筒の口部は紫褐色の筋状の斑紋が多く、不気味な印象がある。開口部以外は白い細毛が多い。おしべやめしべは筒の奥にあって見えない。

ウマノスズクサ属の植物は、ジャコウアゲハの幼虫の食草として知られている。山地の林内に生える。名前は果実の形が馬の首につける鈴に似ていることから名づけられた。ウマノスズクサ科のつる植物。